

第2章 高浜市の高齢者を取り巻く状況

1 人口の状況

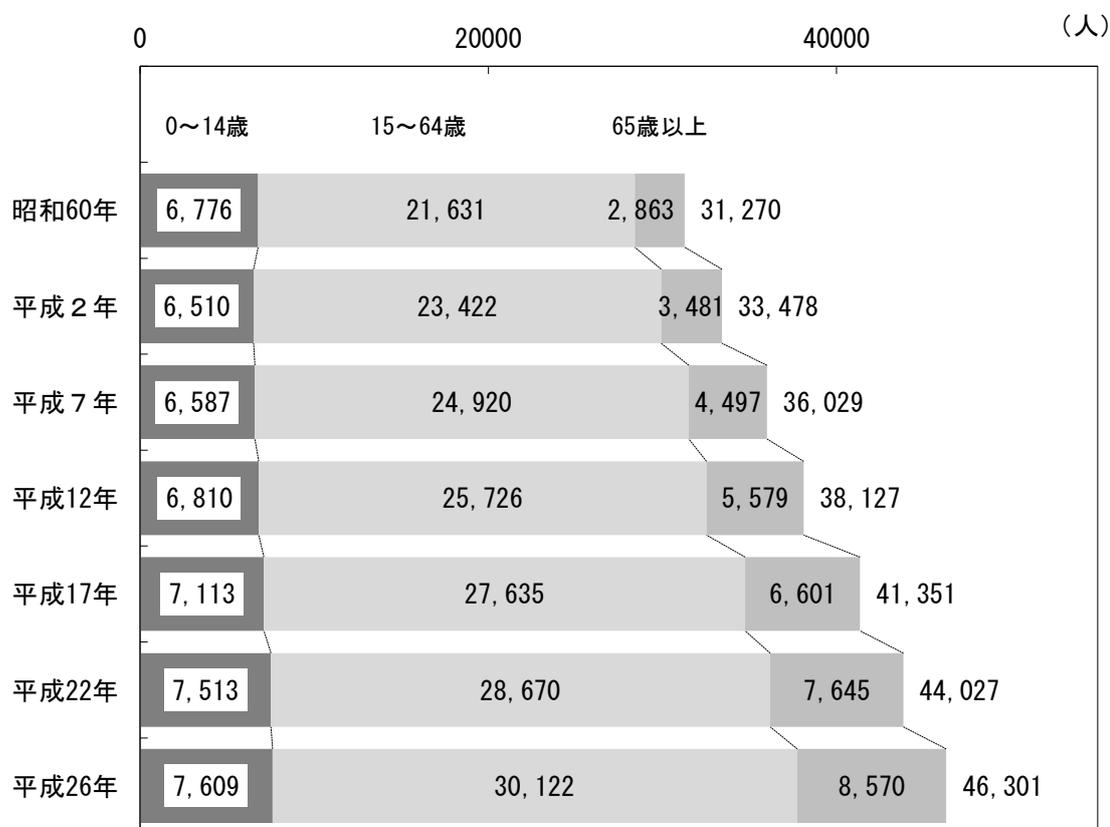
(1) 人口の推移

本市の総人口は、平成26年9月30日現在、46,301人です。人口の推移をみると、右肩上がりに増加し続けています。

年齢3区分別にみると、昭和60年に比べ、0～14歳の年少人口は1.12倍、15～64歳の生産年齢人口は1.39倍、65歳以上の高齢者人口は2.99倍に増加しています（図表2-1）。

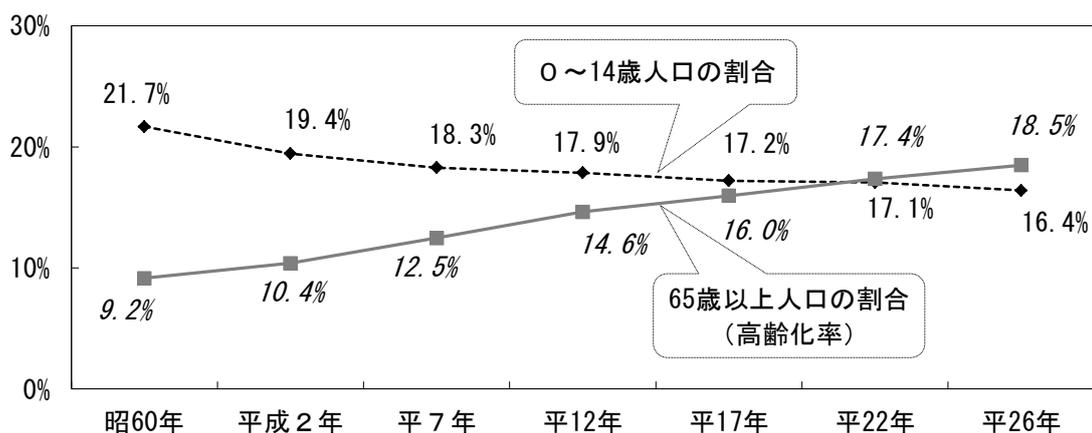
年少人口と高齢者人口の推移を比較すると、平成17年までは年少人口が高齢者人口を上回っていましたが、平成22年から逆転し、以降、その差は拡大傾向にあり、本市においても少子高齢化が進行していることがわかります（図表2-2）。

図表2-1 人口の推移



資料：昭和60～平成22年は国勢調査、平成26年は9月30日現在の住民基本台帳
 （注）平成2～22年の人口総数は年齢不詳を含む。

図表 2-2 高齢者人口と年少人口の構成比の推移



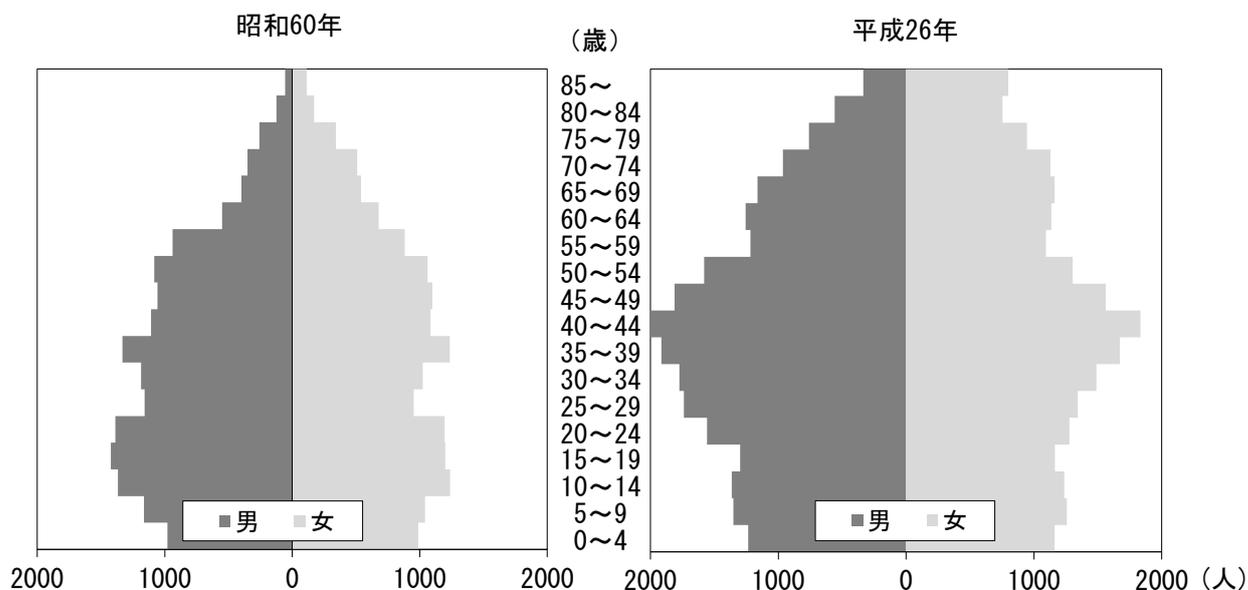
資料：昭和60年～平成22年は国勢調査、平成26年は住民基本台帳

(注) 年齢不詳者を除いて構成比率を計算しています。

(2) 人口ピラミッド

昭和60年と平成26年の本市の人口ピラミッドをみると、昭和60年に比べ平成26年は、各年齢層とも増加傾向にあるため、全体的に大きく一見安定して見えますが、高齢者人口の急激な増加により、上部が広がり若干不安定な形状になってきています。特に女性の長寿化の傾向が読み取れます。

図表 2-3 人口ピラミッド



資料：昭和60年は国勢調査、平成26年は住民基本台帳

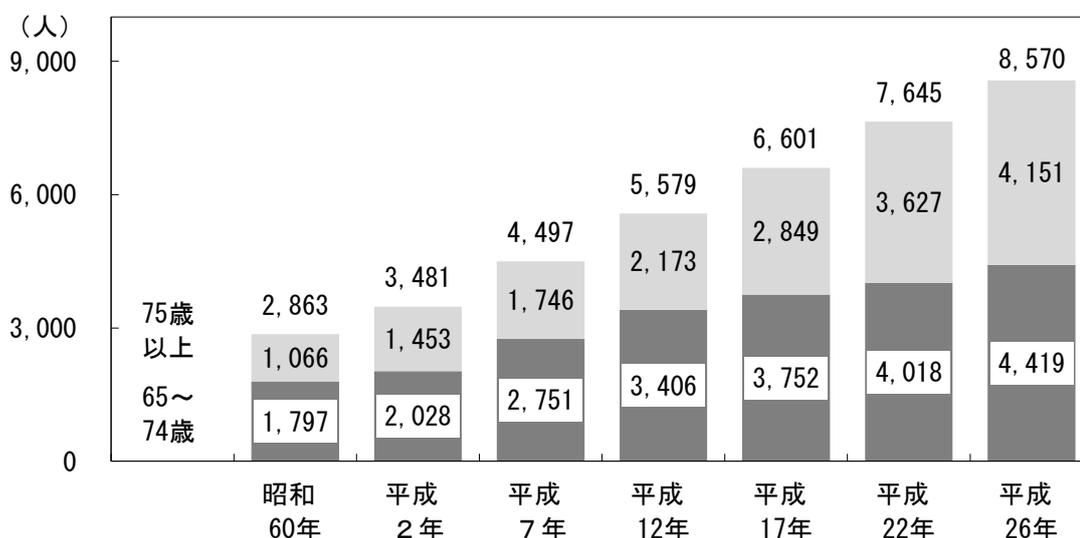
(3) 高齢者人口の推移

本市の高齢者人口（65歳以上人口）は平成26年9月30日現在、8,570人で、65～74歳の前期高齢者は4,419人、75歳以上の後期高齢者は4,151人です。

昭和60年以降の推移をみると、29年で約3倍に増加しています。特に75歳以上の増加が著しく、3.9倍となっています（図表2-4）。

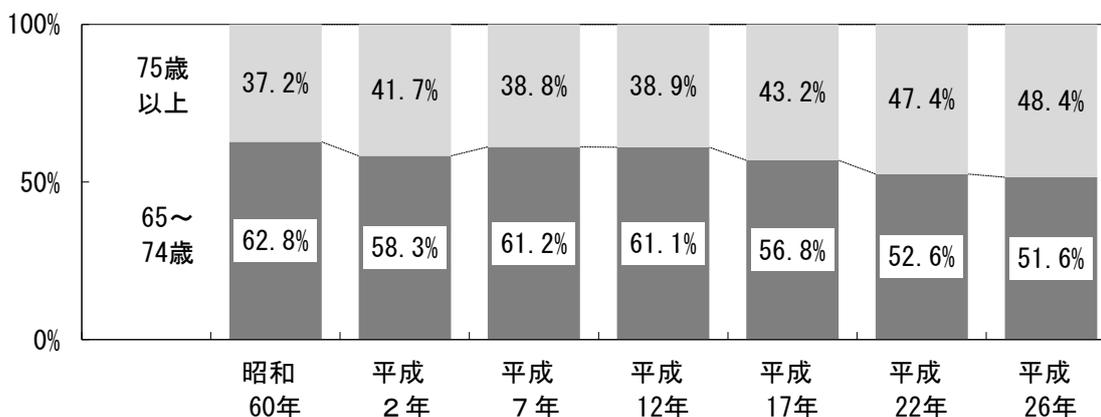
65～74歳人口と75歳以上人口の構成比率の推移をみると、長寿化の進展により、75歳以上の比率が上昇し、65～74歳の比率が低下する傾向にあります。平成26年には、団塊の世代が65歳以上になったため、その傾向が若干弱まっています（図表2-5）。

図表2-4 高齢者人口の推移



資料：昭和60年～平成22年は国勢調査、平成26年は住民基本台帳

図表2-5 65～74歳と75歳以上人口の構成比の推移

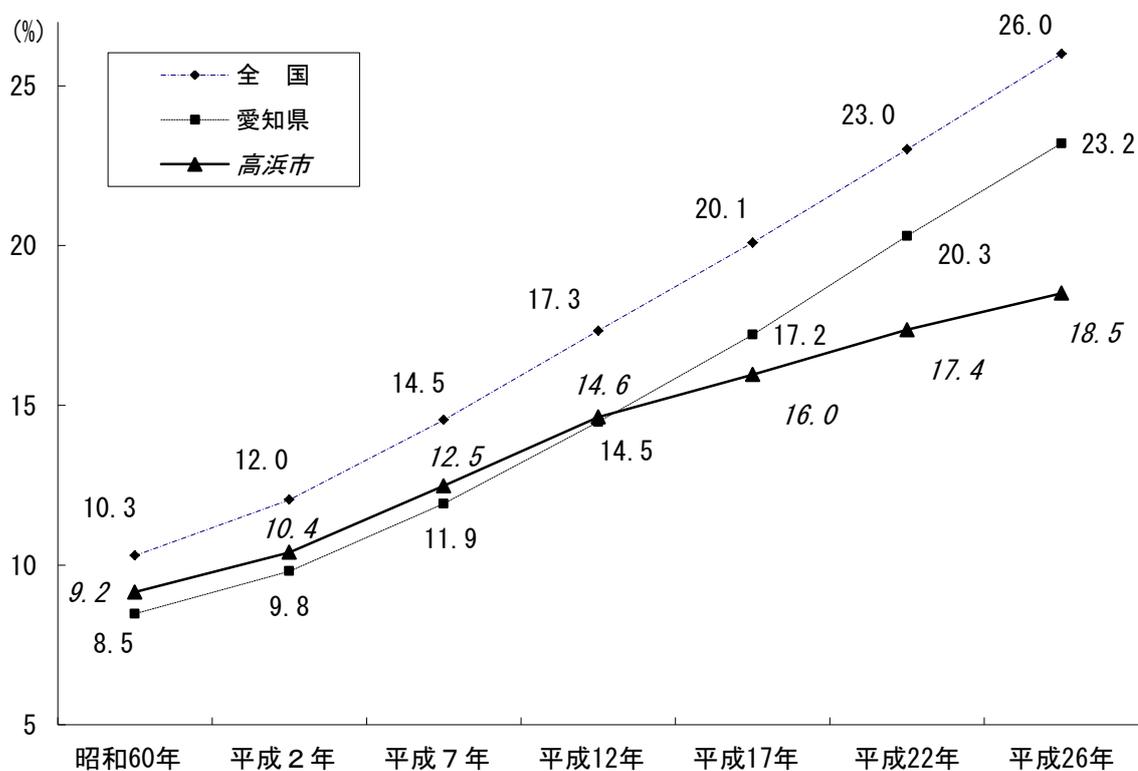


資料：昭和60年～平成22年は国勢調査、平成26年は住民基本台帳

(4) 高齢化率の推移

本市の高齢化率は、平成26年9月30日現在、18.5%です。全国および愛知県と比較すると、県を4.7ポイント、全国を7.5ポイントと大きく下回っています。

図表2-6 高齢化率の推移



資料：昭和60年～平成22年は国勢調査、平成26年の本市は住民基本台帳（9月30日現在）、全国は総務省の人口推計（10月1日現在）、愛知県は人口動向調査（10月1日現在）

2 世帯の状況

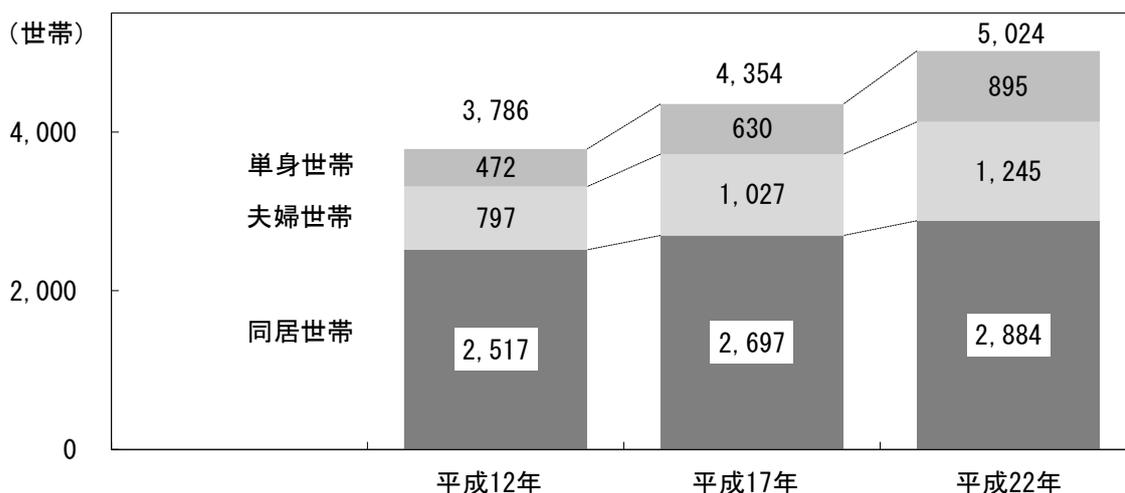
(1) 高齢者のいる世帯

本市の高齢者のいる世帯は、平成22年の国勢調査によると5,024世帯となっており、平成12年から10年間で1.3倍以上増加しています。

また、世帯類型別にみると、高齢者夫婦世帯（夫婦のいずれかまたは両方が65歳以上の夫婦のみの世帯）は1.6倍、高齢者単身世帯は1.9倍増加しています（図表2-7）。

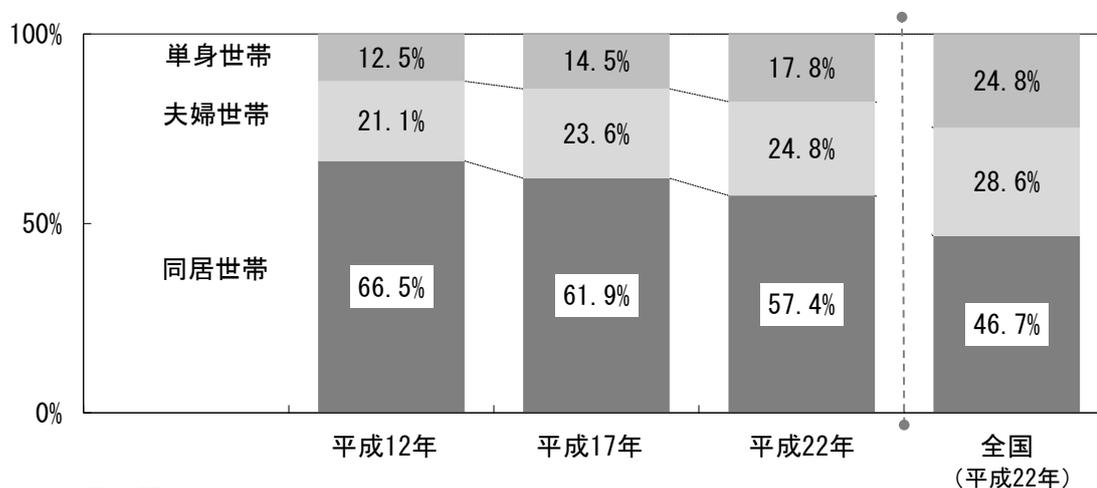
図表2-8でみるとおり、高齢者夫婦世帯および高齢者単身世帯が高齢者のいる世帯に占める比率も年々高くなっていますが、高齢者以外の家族との同居世帯も57.4%あります。これは全国に比べ10ポイント以上高く、本市には高齢者を支える“家族の力”が残されているともいえます。

図表2-7 高齢者のいる世帯の推移



資料：国勢調査

図表2-8 高齢者のいる世帯の類型割合の推移



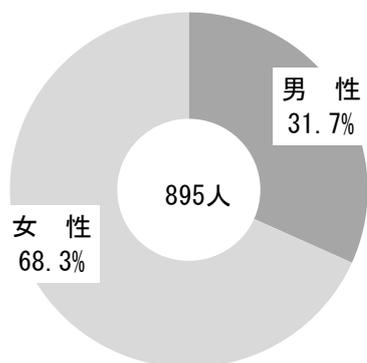
資料：国勢調査

(2) 高齢者単身世帯

高齢者単身世帯は女性が68.3%を占めています（図表2-9）。

年齢別では65～69歳が23.4%と最も高くなっていますが、75歳以上の合計は53.4%にのびります（図表2-10）。

図表2-9 高齢者単身世帯の性別 図表2-10 高齢者単身世帯の性・年齢別 単位：人



区分	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	計
計	209	208	206	155	117	895
	23.4%	23.2%	23.0%	17.3%	13.1%	100.0%
男性	100	67	62	33	22	284
女性	109	141	144	122	95	611

資料：国勢調査（平成22年）

(3) 高齢者夫婦世帯

高齢者夫婦世帯を夫婦の年齢別にみると、夫婦ともに75歳未満の世帯が713世帯（57.3%）と多くなっています。夫婦ともに75歳以上の世帯は300世帯（24.1%）あります。

図表2-11 高齢者夫婦世帯

区分		妻		
		75歳未満	75歳以上	計
夫	75歳未満	713	28	741
		57.3%	2.2%	59.5%
	75歳以上	204	300	504
		16.4%	24.1%	40.5%
計	917	328	1,245	
		73.7%	26.3%	100.0%

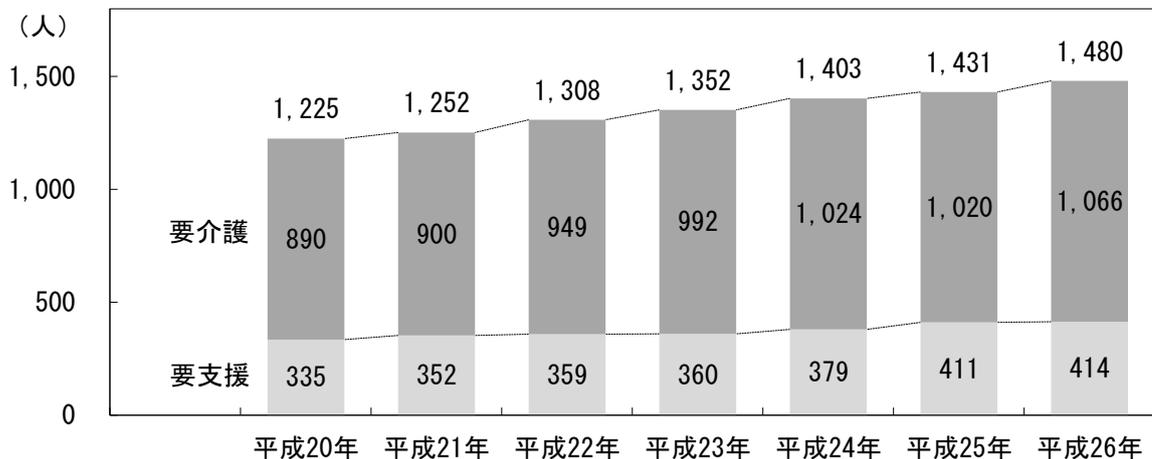
資料：国勢調査（平成22年）

3 要支援・要介護認定者の状況

(1) 要支援・要介護認定者数の推移

平成26年9月末現在、要支援・要介護認定者数は1,480人です。平成20年の1,225人から6年間で255人増加しています。

図表2-12 認定者数の推移



資料：介護保険事業状況報告（各年9月末）

(2) 要支援・要介護認定者数の構成

平成26年9月末現在の要介護度別の認定者数と出現率をみると、65歳以上の第1号被保険者の認定者は1,428人、第1号被保険者の16.7%となっています。また、75歳以上の認定者の割合は29.6%と、75歳以上の4人に1人以上が認定者となっています。今後さらに長寿化の進展により、要支援・要介護認定者も増加していくと考えられます。

図表2-13 要支援・要介護認定者数

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
第1号被保険者	180	222	315	265	169	166	111	1,428
	2.1%	2.6%	3.7%	3.1%	2.0%	1.9%	1.3%	16.7%
65~74歳	33	38	36	34	23	26	11	201
	0.7%	0.9%	0.8%	0.8%	0.5%	0.6%	0.2%	4.5%
75歳以上	147	184	279	231	146	140	100	1,227
	3.5%	4.4%	6.7%	5.6%	3.5%	3.4%	2.4%	29.6%
第2号被保険者	7	5	10	8	4	11	7	52
計	187	227	325	273	173	177	118	1,480

資料：介護保険事業状況報告（平成26年9月末）

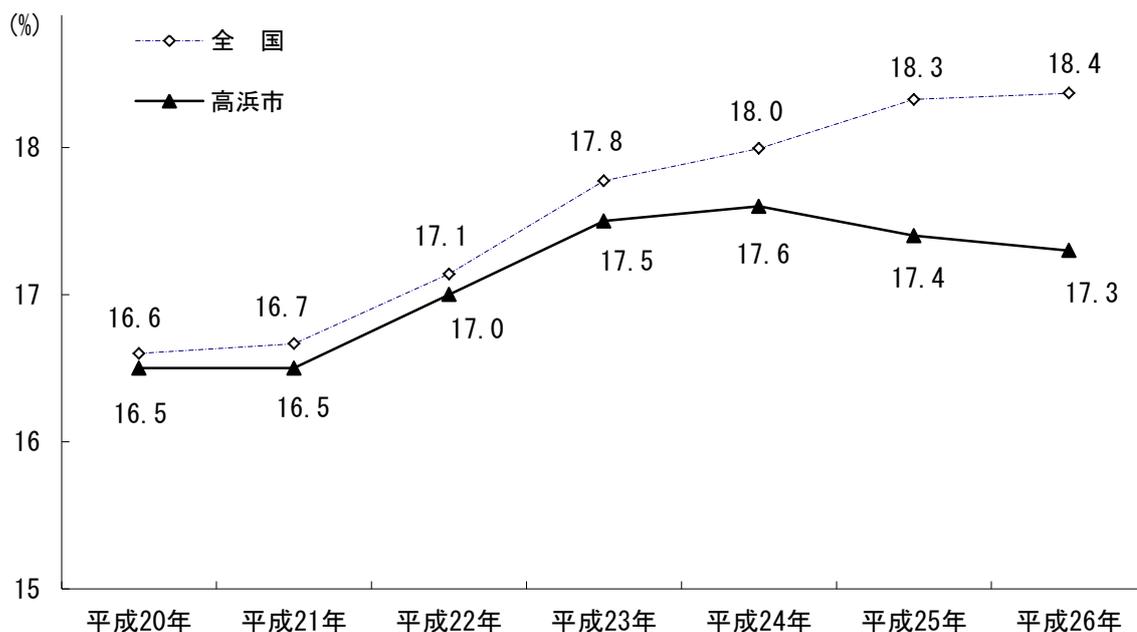
注：下段は各人口に対する割合（65歳以上高齢者数=8,570人、65~74歳=4,419人、75歳以上=4,151人）

(3) 要支援・要介護認定率の推移

第1号被保険者数に対する認定者数（第2号被保険者の認定者も含む）の割合の推移をみると、本市は平成24年をピークに若干低下の傾向を示しています。

平成26年9月末現在、17.3%で、全国平均より1ポイント以上低い率となっています。

図表2-14 要支援・要介護認定率の推移



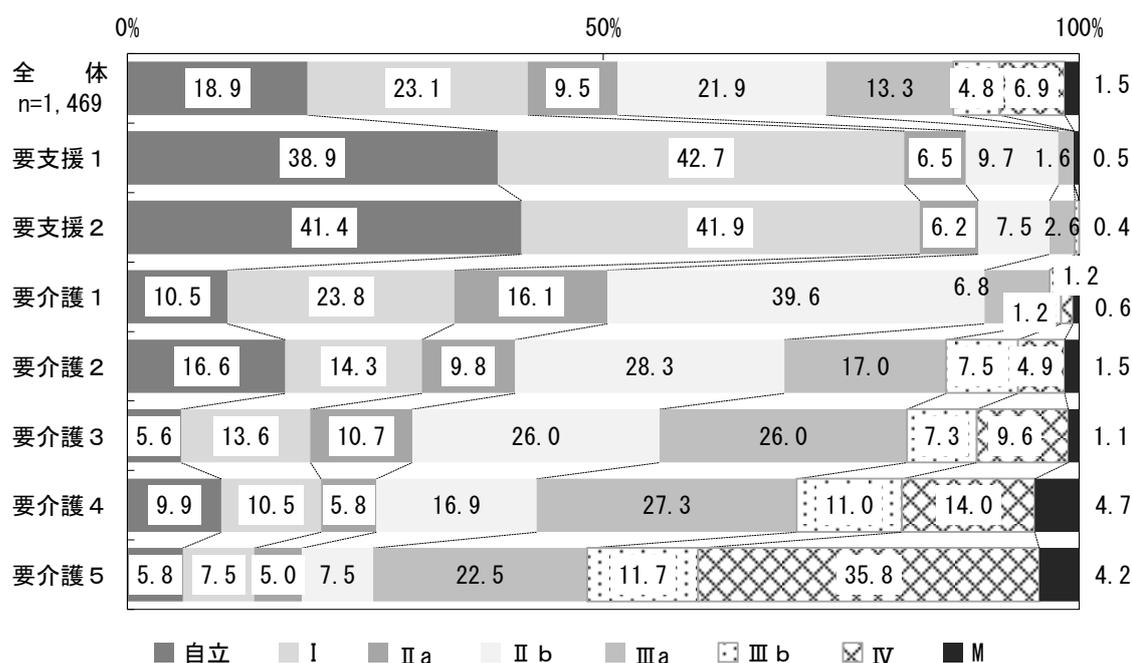
資料：介護保険事業状況報告（各年9月末）

4 認知症の人の状況

(1) 要支援・要介護認定者の認知症日常生活自立度

要支援・要介護認定では、認定調査や主治医意見書の中で「認知症高齢者の日常生活自立度（認知症自立度）」の指標が使われています。その判定基準にしたがって、本市の認定者の認知症自立度をみると、「日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さ」がみられるようになるⅡ以上の合計が57.9%を占めており、介護が必要な状態であるⅢ以上が26.5%となっています。

図表 2-15 認定者の認知症日常生活自立度（平成26年9月30日現在）



注) 不明 (11人) を除く

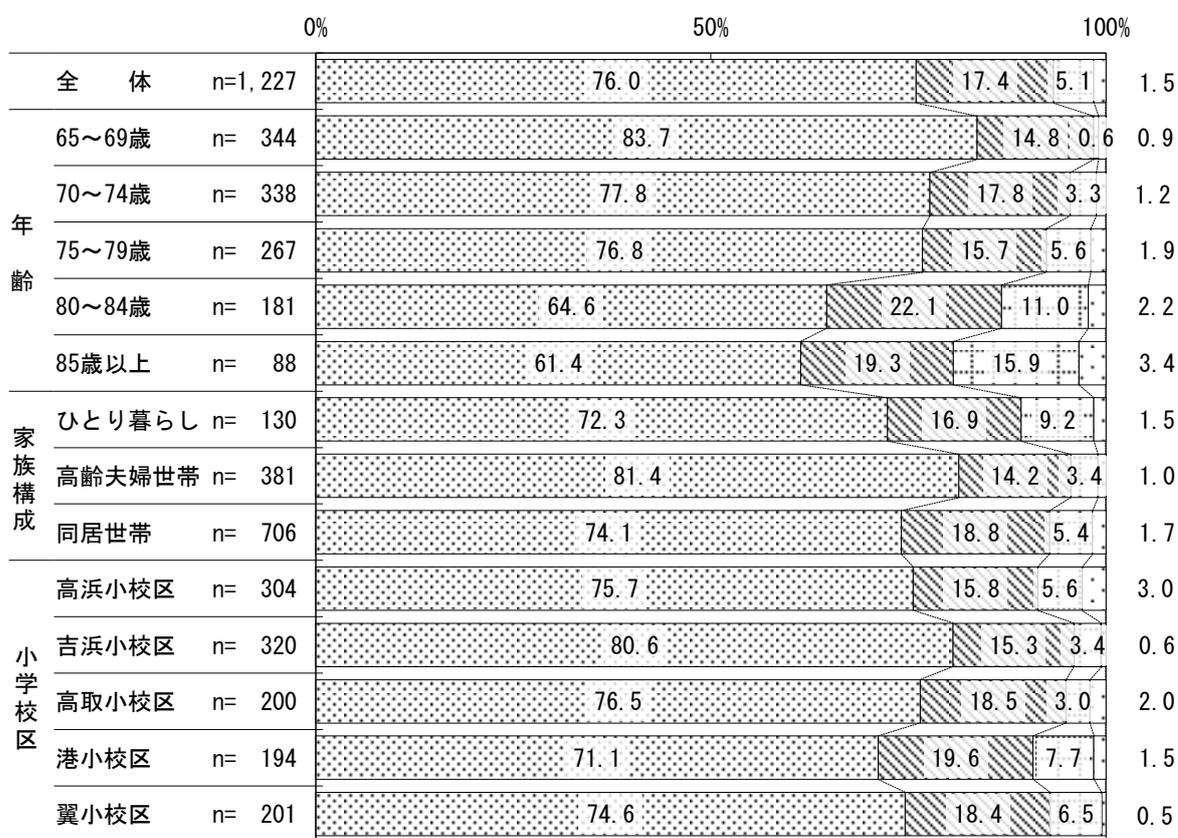
〔参考〕 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる	たびたび道に迷うとか、買物や事務、金銭管理等それまでにできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	ランクIIIに同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

(2) アンケート結果にみる一般高齢者の認知症の状況

要支援・要介護認定を受けていない高齢者（以下、「一般高齢者」という。）の認知症の状況について、平成26年6月に実施したアンケートの結果から認知機能の障害程度の指標として有用とされる評価方法であるCPSでみると、「障害なし」が76.0%を占めていますが、「境界的」（1レベル）が17.4%、「軽度」（2レベル）が5.1%、「中等度以上」（3レベル以上）が1.5%あります。80歳以上になると、「障害なし」が60%台まで低下します。家族構成別にみると、ひとり暮らしでは、他の世帯に比べ「障害なし」が低く「軽度」が若干高くなっています。

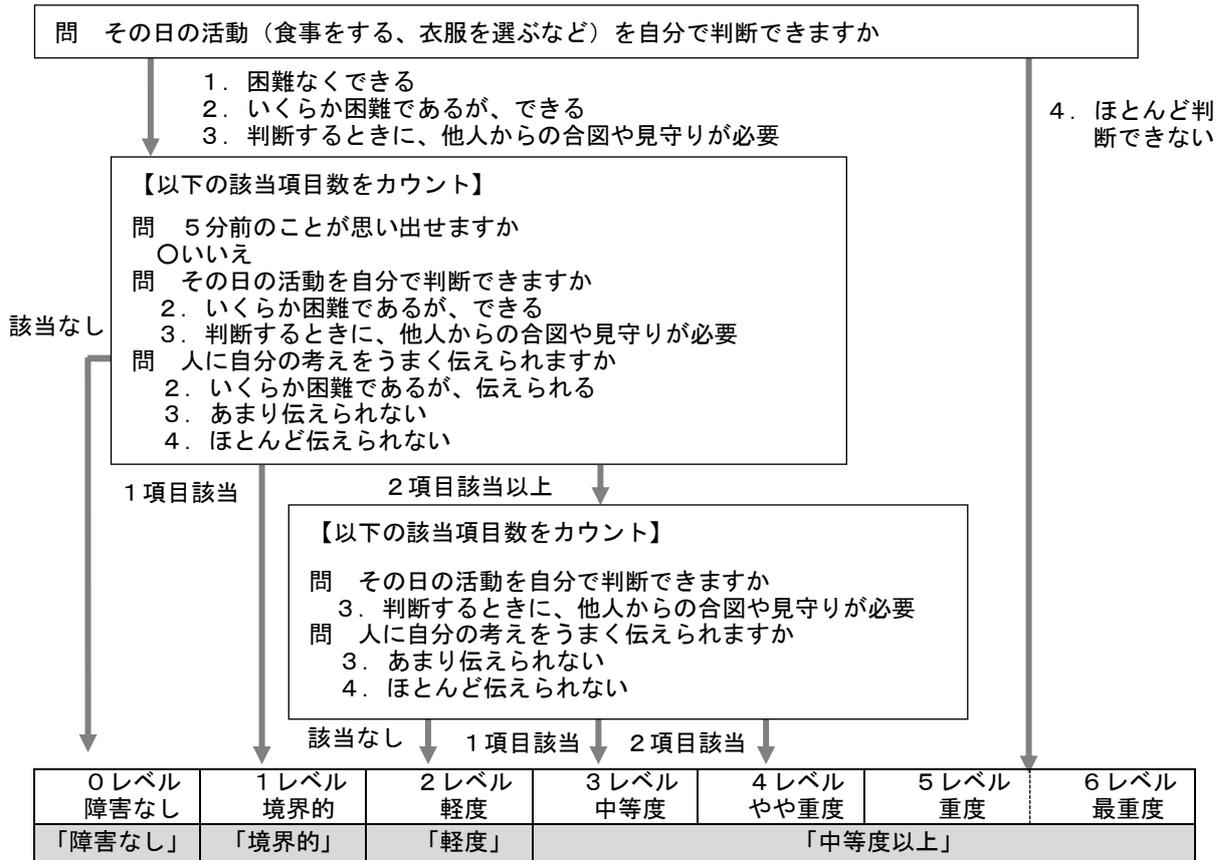
図表 2-16 アンケート結果にみる一般高齢者の認知機能障害程度（CPS）



☐ 障害なし ▨ 境界的 □ 軽度 □ 中等度以上

資料：高浜市介護保険・高齢者保健福祉市民アンケート（平成26年6月）

〔参考〕認知機能障害程度（CPS）の評価方法

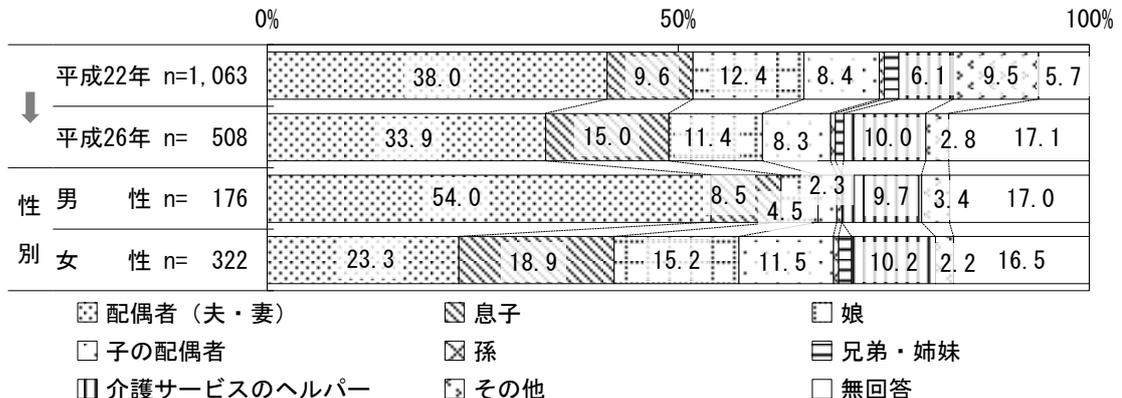


5 介護者の状況

(1) 介護者・介助者

介護・介助を受けている人の主な介護者・介助者については、高い順に「配偶者」が33.9%、「息子」が15.0%、「娘」が11.4%です。性別にみると、男性は「配偶者」が54.0%と圧倒的に高くなっています。平成22年の調査結果に比べ、「配偶者」が低下する一方「息子」が高くなっています。

図表2-17 介護者・介助者（在宅認定者）

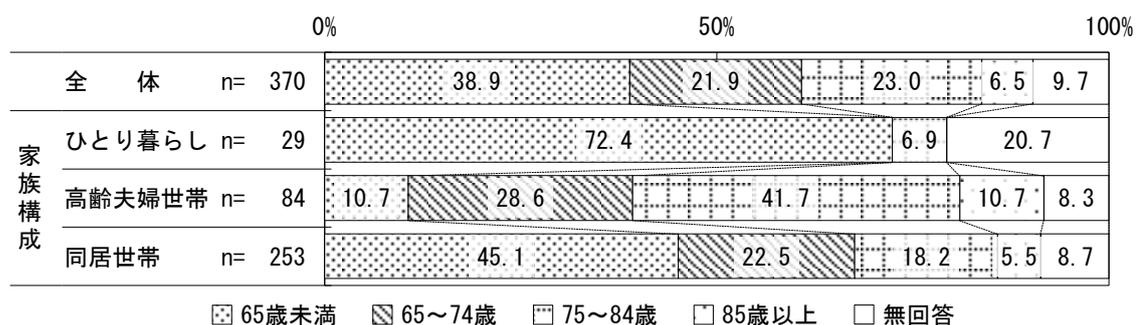


資料：高浜市介護保険・高齢者保健福祉市民アンケート（平成26年6月）

(2) 介護者・介助者の年齢

介護・介助を受けている人の介護者・介助者（ヘルパー以外）の年齢は、「65歳未満」が38.9%を占めていますが、次いで「75～84歳」が23.0%、「65～74歳」が21.9%、「85歳以上」が6.5%と、65歳以上の合計が50%を超えています。家族構成別にみると、高齢夫婦世帯では75歳以上が50%を超えており、いわゆる「老老介護」の現実は、本市においても深刻な問題であることがわかります。

図表 2-18 介護者・介助者の年齢

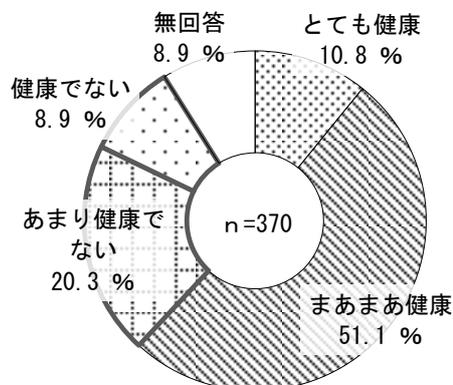


資料：高浜市介護保険・高齢者保健福祉市民アンケート（平成26年6月）

(3) 介護者・介助者の健康状態

介護・介助を受けている人の介護者・介助者（ヘルパー以外）の健康状態は、「まあまあ健康」が51.1%を占めていますが、「あまり健康でない」（20.3%）と「健康でない」（8.9%）の合計は29.2%あり、多くの介護者・介助者が自らも健康上の問題を抱えながら介護している現状がみてとれます。

図表 2-19 介護者・介助者の健康状態



資料：高浜市介護保険・高齢者保健福祉市民アンケート（平成26年6月）